

## 古希からの挑戦

## 文 葛西得男

Text by Tokuo Kasai

1 930年代頃、15歳の時に極寒の韓国から嵐の玄界灘を小型ボートで日本に渡った少年がいました。彼らはイ・ヒゴンといいました。彼は蒸しパンが大の好物でした。そして、韓国では好きな蒸しパンを一週間に一度しか食べられませんでした。日本に行けば蒸しパンをお腹いっぱい食べられるかもしれない！そう思いました。

何故かそう考えて玄界灘を渡って日本にやって来てしまったのでした。大阪に着いた少年は死に物狂いで働きました。そしてついに大阪に小さな信用金庫を作りました。同胞のため、同胞の苦しみを軽減するために関西興銀という信用金庫を作ったのでした。そして関西興銀は頑張り成長しました。

関西には韓国と日本のための「お祭り」があります。「四天王寺ワッソ」というお祭りです。ワッソ、ワッソという掛け声とともに舟だんじりを曳いて巡行します。そしてそれを聖徳太子など古代の日本人に扮した参加者が出迎えるというもので、関西の著名人も多く参加している有名なお祭りです。

このワッソは関西興銀が始めたお祭りなのです。しかし、バブル崩壊で大きな損失を出し、関西興銀は崩壊してしまいます。その頃、彼は丁度70歳を迎えた頃だったそうです。もう駄目だと諦めてしまいうような年齢だと思えます。しかし、彼は諦めませんでした。

「人生はいつからでもチャンスがある」たとえ年老いて古希になっても、古希からでも、プラス思考で前向きにチャレンジする姿勢さえあれば、必ず実現できるチャンスはきつとあるのだと彼の生き様がそう教えてくれているように思います。

私も、諦めず幾つになってもチャレンジする心をつつまでも忘れないようにしたいものだと思っています。

今度は仲間と一緒に祖国韓国に新韓銀行を築きあげたのです。そして現在では新韓銀行は世界に2600店舗、従業員5万6000人の雇用を生み出し、韓国ではサムスン、現代自動車に次ぐ金融財閥にまでなったのでした。

15歳で玄界灘を渡った少年の、生誕100周年を祝う大きなイベントが去年韓国で行われました。私もご招待を受け参加させて頂きました。



イヒゴン氏の生誕100周年記念式典の記念品

## Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。  
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。  
1975年に帰国後、アップリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人松福会理事長に就任。松福会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。  
アップリカ葛西副社長時代に国連UNEP環境計画のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。

